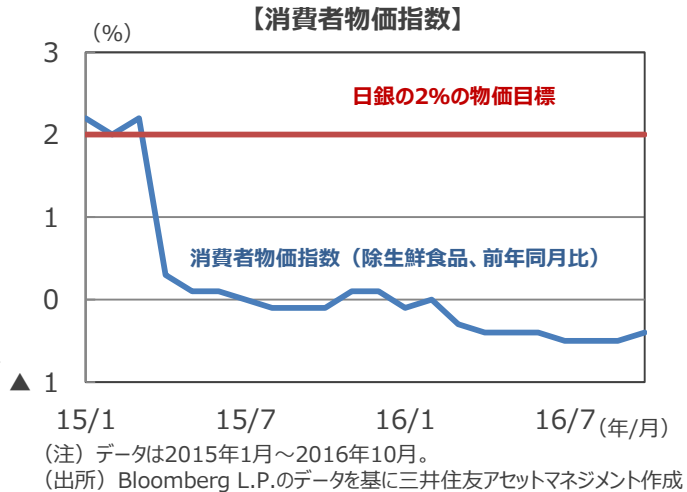


今日のトピック 日銀の金融政策（2016年12月）
金融政策の据え置きと円安傾向が続く見込み

ポイント1 金融政策を据え置き
市場の予想通り

- 12月20日、日銀は金融政策決定会合で、市場の予想通り金融政策の現状維持を決定しました。
- 短期の政策金利は▲0.1%、長期金利である10年物国債金利は0%程度に操作する金融調節を維持し、長期国債の買い入れペースも年約80兆円目途に据え置きました。また、長期国債以外では、ETFおよびJ-REITについてそれぞれ保有残高を年間約6兆円、約900億円に相当するペースで増加するよう買入れることなども据え置きました。



ポイント2 景気判断は上方修正
今後緩やかな拡大に転じる見込み

- 日銀は、景気について、輸出や鉱工業生産は持ち直している、前回判断の横ばいから判断を引き上げました。また個人消費についても前回会合での、一部に弱めの動きがみられる、といった文言がなくなり、底堅く推移していると考えています。日銀は、今後の日本経済について、極めて緩和的な金融環境や政府の大型の経済対策、海外経済の改善を背景として、緩やかな拡大に転じていくと見ています。



今後の展開 円安傾向が続く見込み

- 日銀は、2%の物価目標を掲げていますが、予想物価上昇率は弱含みの局面が続いていると判断しています。日銀は、物価は当面小幅のマイナスないし0%程度で推移する一方、需給バランスの改善から、中長期的な予想物価上昇率の高まりによって、2%に向けて上昇していくと見ています。
- 先週、米国では利上げが実施され、来年は従前の予想より早いペースでの利上げが想定されている一方、日銀は当面金融政策の現状維持が見込まれます。トランプ次期大統領が選出されて以降、株高、円安となっていますが、今後も内外金利差の拡大に連れて円安傾向となる可能性があります。

ここもチェック! 2016年12月15日 「日銀短観」、続く企業の慎重姿勢 (日本)
2016年12月14日 日本企業の業績動向 (2016年12月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。